

## コミュニティ・プロジェクト実習 2単位

(後期開講：通常土曜日 3限～5限 13:10～18:00)

### < 授業のねらいと内容 >

この実習では、受講生がプロジェクトの一員として、滋賀県内の特定地域における実際の地域課題・地域再生プロジェクトに取り組み、地域と連携してその解決策を探り、地域に対して提案を行い実践する。解決策を探る過程では、とくに、関係者による合意形成と、地域文化の尊重を重視する。具体的なプロジェクトとしては、古民家再生、廃村の再生活用、河辺環境の再生、伝統技術による新商品開発等を通じた地域再生プロジェクトが考えられる。地域での実践をとおして、地域診断や合意形成の手法を習得し、コーディネート力やマネジメント能力を向上させることをねらいとする。

具体的には以下のスキル、ノウハウの習得を目指す。

- ・地域の課題や可能性を具体的に掘り起こす地域診断のための調査手法や技術。
- ・デザインシャレットやワークショップといった集団で創造的なアウトプットを得るための手法や技術。
- ・大量の情報や議論をうまく扱い、より広範囲の選択肢を示しながら、容易ではない合意形成へとむすびつける総合的なコーディネート力。
- ・コスト、日程、法規、材料、技術、自然環境といった与条件の中で最善の解決方法を見出すマネジメント力やデザイン力。
- ・現実のプロジェクトで起こりがちな未知のことに遭遇し対処していくことで体得できる、問題解決に対する即応性や柔軟性。

### < コアスタッフ > 森川稔、鶴飼修

#### < 授業計画 >

前期終了後に受講生に対するヒアリングを行い課題プロジェクトを決定する。課題プロジェクトは、受講生が実務で直面している課題をプロジェクトとして位置づけるケースと、教員が実施しているプロジェクトへの参画するケースのいずれかが選択可能である。

授業は、第1回目にオリエンテーションを行い、配属ゼミ、指導教員を決定し、目標設定を行う。その後、定期的にゼミを実施し、プロジェクトの企画、進行状況等についてゼミ担当教員から指導を受け、ゼミ生同士の意見交換を行う。また、適宜、指導教員に報告を行い、指導を受ける。12月中旬に全体での中間報告会を行い、学期末に、成果発表会、講評会を行う。プロジェクト報告書やポートフォリオを作成し成果を公開する。

なお、プロジェクトによっては、地域の事情に応じて実施時期を調整することがある。

#### < 成績評価 >

評価は、発表会、ゼミへの出席状況と、評価シートに基づく自己評価・指導教員の評価により行う。

#### < 指導体制 >

- ・指導教員：受講生が取り組む地域プロジェクトの指導に適した本学内外の教員
- ・ゼミ担当：森川 稔、鶴飼 修

#### < 平成 19 年度実習事例 >

**【持続可能なライフスタイル実証実験の場「エコ民家」プロジェクト】** フィールド:豊郷町 実施者:本学大学院1回生  
地域資源である古民家を活用したまちづくりプロジェクトへの参画。古民家改修へ向けての調査、プログラムの策定、設計・監理を実施。地域住民やNPO、学生とのコミュニケーション、マネジメントやプレゼンテーション技術の修得。

**【環境共生コミュニティ創造プロジェクト】** フィールド:近江八幡市小舟木エコ村 実施者:民間企業所属  
実プロジェクトにおいて、環境共生コミュニティの創造に向けた取り組みの実施。事業者、工務店などの「作り手」と「住まい手」の両者に対するワークショップの実施、実施結果の分析。

**【浄化センターにおける遊休地利活用プロジェクト】** フィールド:彦根市内 実施者:滋賀県職員  
浄化センターにおける遊休地の活用提案。地域診断をふまえ、地域コミュニティとの活用プログラムを策定。

**【市内における環境リーダー育成プロジェクト】** フィールド:米原市全域 実施者:米原市職員  
環境基本計画に基づく環境リーダー育成プロジェクト。主体的な活動人材発掘のアンケート調査と、フォーラム実施体制の構築。

**【学内地域貢献活動の継続性創出プロジェクト】** フィールド:既存プロジェクト実施地 実施者:本学大学院1回生  
本学学生による地域貢献活動の継続性について改善方策を提案。活動の成果と課題を調査し、広報活動を展開。